# 揺るぎない産業基盤構築へ

## ■ フードビジネス推進の課題

宮崎県工業会会長　松居氏

―フードビジネス推進の課題について皆さんにうかがいます。

**岡崎**　県内食品メーカー各社は光る商品を持っている。だが従来は県内向けに商品展開してきた結果、その多くが小規模、零細企業にとどまったままだ。各社の課題は消費者、バイヤーに支持される売れる商品づくりや小売り・流通業者が要求する生産ロットを確保できる生産体制の構築など。

これまでの会員支援で40アイテムの新商品を開発し、成果も出してきたが、現在はマーケットインの視点から消費者に最も近い位置にいるバイヤーを招き、各社商品のブラッシュアップや商談でのプレゼン能力の向上に取り組んでいる。

今後はフードビジネスを推進する中で、プライベートブランド（PB）市場開拓支援や会員の新商品のブラッシュアップにつなげる宮崎空港アンテナショップ事業を展開。さらには、参入が難しい病院・福祉施設向け食材の実態を調査して県内加工品の参入機会を確保していきたい。

**松居**　工業会は11年に食品機械研究会を立ち上げ、県内食品機械メーカーと県内外食品加工メーカーを対象に食品機械市場の調査を試みた。

その結果、食品機械の多くが汎用でなくオーダーメードであることがわかった。これは食品メーカーごとに製造法が異なるためで、食品機械産業への参入を目指す県内企業においては高い設計力、技術力が求められる。

一方汎用機械は加熱滅菌装置のような単位操作を行うものが多いため、県内企業には参入の糸口になるだろう。ただ現状は県内食品メーカーの多くが県外製造の食品機械を導入している。

さらに、県内食品メーカーが県内食品機械メーカーへ期待するのは高生産性や安全安心への対応はもちろんのこと、清掃洗浄やメンテナンスが容易にならないかというものだった。そこで県内食品機械メーカーが県内食品メーカーから受注を得る最適条件は、地元の強みを生かして依頼があればすぐに駆け付け、開発から一緒にかかわることではないだろうか。

工業会会員には食品、焼酎メーカーが参加しており、産学官連携は得意分野だ。今後フードビジネスを推進する中で、県内食品機械メーカーの優れた技術をもっと県内食品メーカーに紹介し、さまざまな連携の橋渡しに取り組みたい。

**岡崎**　安全安心を第一に考える食品においては食品機械に求める二つの安全性がある。一つめは機械の労働安全性。二つめは衛生安全性だ。

衛生安全性を怠ると、食品メーカーとしての信用を失ってしまう。この二つの安全性を克服することが食品機械関連産業に参入を目指す企業の大きなハードルになっている。今後食品機械メーカーに対しては食品産業に対する幅広い知識や高度なクリーン技術の習得、高精度で微細な加工技術の向上を求めたい。

**清本**　食品機械は製品寿命が長く大量生産向けの機械が多い。岡崎会長も指摘されたように宮崎で安定した生産ロットが確保できるかどうかが課題だ。さらにフードビジネスは自然に左右される。ただ宮崎の県土は縦に長いが耕地面積が狭く、大量生産には向いていない状況だ。

こうした中で、良い商品をつくっても生産ロットが小さく、安定供給ができなければ大消費地への販路拡大はできない。全国トップクラスの生産を誇るピーマンなどは問題ないだろうが、それ以外は機械化して量産に乗せるのは難しいだろう。

そこで大消費地向けは素材そのものの売り方をさらに工夫して季節限定でもいいから、高級ピーマンなどを販売するのはどうだろうか。おいしく、安全安心の商品であれば高級品でも消費者は購入するだろう。

単に商品を安売りするだけが商売ではない。もっと宮崎はビジネス手法を磨き、自らの価値の創造を高めるべきだ。

## 食品機械の取引 後押し　松居氏

## 宮崎らしいイノベーションを　堀井氏

宮崎大学副学長　堀井氏

**堀井**　新たな「宮崎モデル」やブランドをつくるには宮崎らしい物語性が大切だろう。その点、農業は県内で生産した生産物を改良し、県外に展開してきた。「太陽のタマゴ」としてブランド化した県産完熟マンゴーは、まさに成功事例だ。

だが高付加価値商品の県産マンゴーも原燃料高で苦しむ生産農家の現状を考えると、高投入型商品ともいえる。そのため産学連携して宮崎の農業をエネルギー面から見直すことが必要だ。宮崎の豊富な太陽光、バイオマス発電を利用すれば、小さいエネルギーで地産地消の商品生産ができる。

この利点を生かして地場企業は新エネルギー関連技術を磨き、生産農家の所得を向上させる仕組みをつくる。これができれば、化石燃料に頼らない安全安心の農産物生産が可能となり、宮崎らしい物語性があるイノベーションを興せる。

―皆さんの発言に対して、河野知事はいかがですか。

**河野**　皆さんからさまざま意見を聞いて、参考になった。特に大消費地への売り方の工夫については5月末に開いたフードビジネス推進会議でも同様の意見があり「宮崎は売り方が下手だ」などと本音ベースの議論があった。

ただ今回フードビジネスを推進する中でわかったことは、これまで農商工連携などを推進してきたが十分に関係者相互の情報共有ができていなかったことだ。しかし課題がはっきりと見えたことで、今後新たな連携を橋渡しするチャンスができたと感じている。

先ほど話が出たピーマンの例では、すでに産地間競争に勝つ商品づくりの検討を始めている。今後ピーマンに含まれるベータカロテンなどが日照時間の影響で他産地よりも高いという機能性を打ち出して販促していく。

また新エネルギーを生かした農業も重要だ。今年度は太陽光、バイオマスなどの利用研究をさらに進めていく。

活発な議論に沸いた座談会

## ■ 今後の展望

―最後に今後の展望、提言についてうかがいます。

**堀井**　フードビジネス振興構想は本学の全学部がかかわることができる構想で、宮崎の魅力に触れ、人材を育成し、地域を発展させるモデルになると感じている。ぜひ地域や産学官の垣根を越えて、これまで以上にオール宮崎で取り組みを加速させていきたい。

**岡崎**　地域の活力を向上させるには成長産業の集積が大切だ。ただ全国でもフードビジネス推進の動きは活発で、他地域との競争に負けない取り組みが欠かせない。

特に食品開発の動きはここ数年商品寿命が年々短くなっている。息の長い本物志向の商品づくりが県内食品メーカーには求められるだけに、フードビジネス振興構想により農商工に官が加わった推進体制で、今後の商品開発体制をさらに強化し、地域経済の活性化に弾みをつけていきたい。

清本鐵工社長　清本氏

## 生産農家の所得向上を　清本氏

**松居**　堀井センター長が新エネルギーの活用に触れられたが、産業基盤となるエネルギーの確保は産業集積を進める中での重要な課題だ。宮崎は豊富な森林資源がある。この資源を生かしてバイオマス発電を中心とした新エネルギー王国を目指すのも面白い。

フードビジネスなど成長産業を支える基盤を確保するためにも、県の基本方針にある新エネルギーの利活用戦略に注目し、期待したい。

**清本**　当社も新エネルギーについては関心を持って取り組んでいる。バイオマスチップの生産や施設園芸農家向けに低価格のバイオマスボイラを開発中で、原燃料高に苦労する生産農家に役立てたい。

またフードビジネスはすばらしい構想だ。業界挙げて取り組みたい。ただ構想の中で、具体的に生産農家の所得がどの程度向上するかが、現段階では全体目標からは見えていないのが残念だ。オール宮崎で取り組むならば「農業所得が倍増する」というかけ声があると、生産農家も意欲的に取り組めるはずだ。

**河野**　宮崎の成長を考えたとき、その伸び代はどこにあるのかとまず考える。交通、物流面では東九州自動車道路の宮崎―延岡間が13年度末までに開通する。これまで遅れていたインフラが整備されることでその分の伸び代が生まれる。

フードビジネスの推進においても工業会や大学などの知恵や技術をさらに結びつけることで素材供給型から転換し、すそ野の広い関連産業を創出する大きな伸び代が生まれるはずだ。

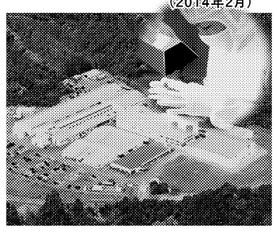
構想を策定した現段階ではこれから詰める点も多い。だがマーケットインの視点を重視し、宮崎の素材を使った商品が具体化してくれば、産地間競争に勝てる独自構想になると考えている。

こうした意味では県産マンゴーの「太陽のタマゴ」だけでなく、通年販売できる冷凍マンゴーが開発されたことは構想推進の起爆剤となる。

フードビジネスの推進が2次、3次産業にとどまることなく、最終的に宮崎の食の安全安心、おいしい農畜水産物を生産する生産者の所得向上につながる取り組みに育て、県全体の成長を底支えする産業集積の柱として推進していきたい。

―ありがとうございました。


・ISO9001認証取得
・医療機器製造業許可取得
・ISO13485 認証取得予定（2014年2月）



事業内容
■射出部門
●射出成形品（医用部品）
●医療機器製造受託
■印刷部門
●医用ラベル（医薬・医療機器等）
●一般ラベル　●食品用シール
●ホットメルト
■発泡部門
●発泡スチロール（水産・農業）
●パワーフロート　●緩衝材
●盛土用ブロック　●医用向け資材
●農水産用資材

安井株式会社
本社・工場 〒889-0697 宮崎県東臼杵郡門川町大字加草2725番地
(代)TEL(0982)63-7111　FAX(0982)63-7130
□鹿児島製造所・営業所　□福岡営業所　□日南営業所
http://www.yasui-kk.co.jp

＊機械製作・設備工事・保守など工場の自動化・省力化・効率化に貢献いたします＊

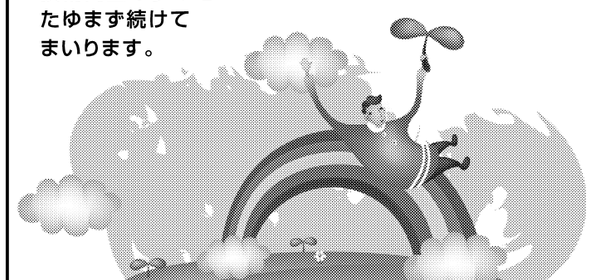
営業種目
食品機械・設備、設計・製作・据付・保守
各種プラント、設計・施工
産業機械・省力化機械、設計・製作
管工事業、鋼構造物工事業、機械器具設置業

日向中 Better and different
株式会社日向中島鉄工所
代表取締役社長　島原 俊英
宮崎県日向市大字日知屋17148-9（細島工業団地4区）
TEL:(0982)52-7215　FAX:(0982)52-7216
URL：http://www.hn-t.co.jp

中央会は中小企業連携活動のパートナー
そして、フードビジネスを支えます。
宮崎県中小企業団体中央会
会長　矢野久也
URL http://www.himuka.or.jp

本格焼酎 くろうまの 霧島
霧島酒造株式会社

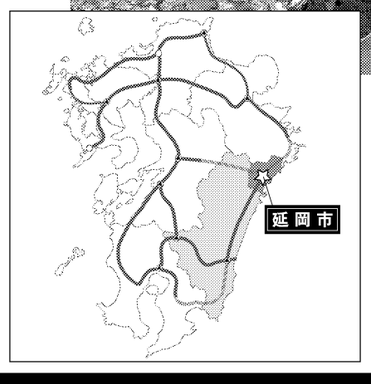
環境保全を使命とし、
技術向上の歩みを
たゆまず続けて
まいります。



プラスチックバルブで世界をリードし、
鋳造用樹脂やフェノールフォーム用樹脂でも
国内トップシェアを有しています。
旭有機材工業株式会社
延岡本社／宮崎県延岡市中の瀬町2-5955　TEL.0982-35-0880
東京本社／東京都港区浜松町2-4-1　TEL.03-3578-6001

昨日まで世界になかったものを。
AsahiKASEI
旭化成株式会社　延岡支社
www.asahi-kasei.co.jp

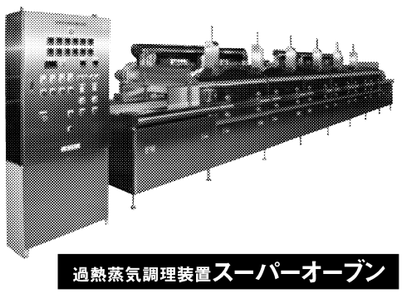
延岡市は医療機器産業の振興に全力で取り組みます!
クレアパーク延岡工業団地第2工区（有効面積11ha）　平成23年3月完成




5つのポイント!
1.高速道路開通による利便性のアップ
2.豊富・勤勉・コストパフォーマンスの高い『人財』
3.工業都市「延岡」の誇る優れた技術の地場企業
4.地理的に低い災害リスク（海抜40m）
5.低価格な工業団地

【お問い合わせ先】延岡市工業振興課　TEL／0982-22-7035　FAX／0982-22-7080
http://www.city.nobeoka.miyazaki.jp　e-mail:kougyo@city.nobeoka.miyazaki.jp

ヒューマン・テクノロジーをめざして


過熱蒸気調理装置スーパーオーブン

【キヨモトの産業機器】
■食品機械
■一般産業機械
■鋼構造物製作
■火力、原子力発電用機器
■木質バイオマス利活用プラント
■汚水処理プラント

キヨモト清本鐵工株式会社
本社・延岡工場／〒889-0595宮崎県延岡市土々呂町6-1633　TEL(0982)24-1111　FAX(0982)24-1145
http://www.kiyomoto.co.jp　東京・関東・富士・大阪・倉敷・佐賀・大分・長崎・日向・都城